



# 東 俣 野 5月号

東俣野小学校 学校だより 令和5年4月28日

## “ 今年度の取組 ”

学校長 幸保 陽子

新年度が始まり1か月がたちました。子どもたちは少しずつ新しい環境に慣れ、楽しみを見出しながら学校生活を送っています。保護者の皆様には、授業参観や懇談会、個人面談など、来校していただく機会が多い1か月間となりましたが、ご協力いただきありがとうございました。新年度をスタートさせるにあたり、保護者の方とお子さんの様子を共有することができ、とてもうれしく思っております。今後も、学校と家庭が連携して、お子さんの成長の様子を見守っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

さて、本校の学校教育目標は、「豊かなかかわりの中で ともに輝く ひがまたっ子」です。この学校教育目標を受けて、今年度は「主体的な学び」と「人との豊かなかかわり」に重点を置いて取り組んでいきたいと考えています。

「主体的な学び」とは、知識を一方向的に享受するのではなく、それを踏まえて展開させていく学びです。社会が加速的に変化する中で、子どもたち一人ひとりが新たな価値を生み出していくことが、今、求められています。

そこで、学ぶことに興味関心をもてるように、目的意識をもって学習を進めたり、体験活動を取り入れ、様々な人との出会いを生かしたりしていきたいと考えています。また、解決したい課題をもち、見通しをもつことで、粘り強く取り組むことにつなげていきたいと考えています。学年に応じて、自分の意志や判断で行動できる時間を大切にしたり、アウトプットの要素を多く取り入れたりして、主体的な学びが実現できるように児童の成長を見守っていきます。

また、新型コロナウイルス感染症が少しずつ落ち着いてきた今、「人とのかかわり」を大切にした教育活動が再開できるのではないかと考えています。今年度は、自分たちで活動を創り上げていくたてわり活動を充実させたり、5月中旬からは、東俣野特別支援学校との交流を考えたりしています。また地域の方々との交流もさらに深めていきたいと考えています。子どもたちが、様々な人とかかわりあうことで、自分とは異なる相手を認め、受け入れ、思いやりの心を育むことができると考えます。

先日、6年生の素敵な姿を見つけました。1年生が登校してくると進んで声をかけたり、朝の支度を手伝ったりしていました。1年生の様子に合わせて優しい言葉をかけ、1年生が自分で取り組めるように見守っています。泣いている子のそばに一緒に座り、気持ちが落ち着くまで待っている姿も見られました。1年生の立場になって考え、相手の思いを想像しながら、かかわり方を工夫し、行動しているのです。

本校では、今までもそうであったように、人とのかかわりを大切にしながら、自分の考え方を広げ、深め、自らを高めようと主体的に動き出せる児童をめざして、教育活動を行っていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。